



No.60

令和5年7月7日

発行 多治見市教育研究所

URL: <http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でも
ご覧いただけます。

巻頭言

こんな私が教育委員に

多治見市教育委員会 教育委員 鈴木 亜紀子

【私の子ども時代】

私は、勉強はできましたが、学校は嫌いでした。幼稚園も嫌い、小学校も嫌い、中学校も嫌い……。

幼稚園の年中さんのときには、園を脱走したことがあります。気付いた先生が大慌てで走ってきて門のカギをしめたものの、私はその門に足をかけ、乗り越えて門の外に出ました（それは私の人生の中で最も運動神経が発揮された瞬間でした）。先生が、園内にいる先生に何かを叫んで、園外へと追いかけてきました。住宅の隙間から自宅が見えるところまで来て、「あのオレンジ色の屋根がおうちの」と先生に紹介したところで、落ち着いて先生と一緒に園に帰りました。私は分かっていたのです。その時間母はパートに出ており、家に帰ったところで私は家に入れないことも、子どもの私には幼稚園に戻る以外の道はないことも。先生に自宅の屋根を紹介しただけなのですが、なぜか私は「ストン」と満足しました。

現在、教育長訪問で幼稚園・保育園にお邪魔すると、みんなと一緒にみんなと一緒にのこをしたくない子どもに出会うことがあります。今になって、先生方が子どもの「自分で決める」を尊重して下さっていることを知りました。私もあのとき無理やり連れ戻されていたら、きっと落ち着いた気持ちで園に帰っていなかったらと思うます。

【親になって気付いたこと】

我が家は娘と私の2人暮らしです。とはいえ、私がひとりで娘を育てたわけではなく、娘はたくさんの方の善意で育ちました。

保育園や学校の先生方には、時には私より多くの時間を娘と過ごし、娘を見守っていただきました。そして、これまで大人ばかりのところ私だけが子連れで参加させていただくことも多くありましたが、

娘がそこにいることを受け入れて下さった、たくさんの方たちの存在があります。また、先日娘とコンビニへ行った際、娘を見て「大きくなったね!」と驚いていました。きっと店員さんは、小学生のころ、スイミングの帰りにひとりで入店した娘を、視界に入れて気にかけて下さっていたのでしょう。私の知らないところで、娘が誰かの善意のお世話になっている例もたくさんあると思います。

【教育委員として】

たくさんの方の中で人が育つ。きっとそれを「地域」とか言うのだろうと感じる今日この頃。娘を育ててもらったので、私も誰かの成長や子育てを応援できたらと思い教育委員の活動をしています。

昨夜、中学生の娘と合唱の話をしていた中で、「私、普段伴奏だったから歌詞覚えてないなあ。伴奏じゃないときは、音楽室の一番後ろの窓際でぼーっと風を感じていたから、歌詞知らないんだよね」と言ったら、「なんで教育委員やってるの」と突っ込まれました。「いい人」「お利口さん」「学校好き」という人だけで見てしまうと盲点も似通ってくるので、こんな私が教育委員になるのも、何かの役に立つかもしれません。教育委員らしくない教育委員かと思いますが、引き続きよろしく願いいたします。

余談ですが、ひまわり幼稚園の東門が堅牢になったのは、脱走する園児がいたからという話があるとかないとか……。ちなみに、年中さんの担任の先生には四半世紀を経て再会し、ありがたいことに今でもこの「元・衝撃の4歳児」を応援していただいております。

